

子どもの発達が気になったら・・・

早期の『療育』を始めましょう

発達のアンバランスさや遅れが気になるお子さんは、赤ちゃんの頃から、抱きにくい、泣き方が激しい、なかなか寝ないなどの特徴があります。そんな様子から、子どもの育ち方に悩みを持つお母さんが多く見られます。また、1歳6カ月児健診や3歳児健診などで言葉の遅れや共感性などに心配があると指摘されることもあります。このページでは、そのような発達の遅れなどが気になる子どもに行われる療育についてお知らせします。

問い合わせ 健康づくり課発達支援係(プラザけやき内☎37-1136)

療育とは？

発達のアンバランスさや遅れが気になる子ども一人ひとりに合わせて発達を促す対応をすること。また、そのような子どもが生活しやすくなるように親子に寄り添い、丁寧に支援することを「療育」といいます。療育は、訓練してその他の子どもたちの発達に追いつかせるものではなく、ちょっと頑張ればできる遊びや関心が増えるような課題を提供し、経験を積ませていくものです。

そうした経験を通じて、子どもが「できた!」「やればできる」という喜びを得て、自己有能感を形成し、個性に応じた発達を遂げていくための基礎を固めていきます。



早期の療育で大きなメリット

子どもの発達に合わせた適切な療育を行うことは、早ければ早いほど望ましく、効果も大きなものになります。幼児期から療育を行って、積み上げてきた子どもは、小学校に入学する頃になると、療育を積み上げる機会に恵まれなかった子どもと比べ、大きな差が見られ、集団生活に上手く適応していきます。また、療育は親子でじっくり向かい合いながら行っていくことで子どもだけでなく、親にも貴重な経験をもたらしてくれます。

それに加えて、専門家から発達に合わせた具体的なアドバイスをもらえたり、入園・入学に向けた不安への相談にのってもらえたりすることなども大きなメリットです。



療育の事例

「2歳児のママAさんの場合」

2歳児健診での出来事がきっかけ

Aさんのお子さんは、2歳児健診時に言葉が出ておらず、突然Aさんやまわりの人をたたいてしまい、対応に困ってしまいました。これを機会に発達相談を利用し、週1回の療育教室を紹介され、通うようになりました。

Aさんのお子さんは、楽しい気持ちを感じられる遊びを経験することから療育を始めました。その後、トイレトレーニングや服の着替え、食事などの生活面が身につく療育などを行い、1年後には療育教室に通い続けながら就園しました。

教室では、こんな遊びを行います

○親子運動・・・親子で楽しみながら体を動かすことで、人への興味関心や共感性を高めます。

○紙風遊び・・・ちぎる・丸めるなどの手先の使い方を遊びの中で学んだり、紙の舞う様子や感触を楽しんだりします。

○サーキット運動・・・体全体を使って運動を行います。友達と一緒に運動を行う楽しさを感じるとともに、友達との順番を守るなどのルールがあることを体験していきます。

子どもの発達相談を行っています

市では、専門相談員による発達相談を行っています。相談は、簡単な発達検査をして、子どもの発達の様子や得意・不得意なことを探します。それを基に発達に合わせた対応方法を一緒に考えていきます。子どもの成長に悩んだり、心配ごとがあったりした場合には、ご利用ください。詳細は、下記に問い合わせください。

問 健康づくり課発達支援係(プラザけやき内☎37-1136)

